

国際物流拠点 アジアの中の沖縄を考える

～「万国之津梁」の復活に向けた国際物流拠点の形成～

日本本土と中国・東南アジア諸国等の中間に位置し、琉球王朝時代は、この地理的な優位性を活かして中継貿易の拠点として栄えた沖縄。

産業のグローバル化が進む現在、沖縄が再び国際物流の拠点として「万国之津梁」となり、自立型経済構築するための第1歩となるシンポジウム「アジアの中の沖縄を考える」を開催しました。



シンポジウム会場の様子

1. シンポジウムの概要

12月9日（土）、「国際物流シンポジウム」を那覇市内で開催したところ、当日は土曜日にもかかわらず300名

を超す参加者にお集まりいただきました。

本シンポジウムは、テーマとして「アジアの中の沖縄を考える」、副題として「『万国之津梁』の復活に向けた国際物流拠点の形成」を掲げ、沖縄の国際物流、さらには自立型経済の構築について県民の

皆様と一緒に検討

していくための第
一歩として開催し
たものです。

シンポジウムは、

沖縄県広報番組キ
ャスターの當銘直
美さんの司会で行
われ、まず、主催
者代表として沖縄
総合事務局開発建
設部の佐藤孝夫部
長が挨拶を行い、
続いて来賓の国土
交通省港湾局計画
課の富田英治課長
からご挨拶を頂き
ました。

その後、立命館

アジア太平洋大学
汪正仁（ワンジ
エンレン）教授の
基調講演、(株)メイ

クマン代表取締役社長の湧川善
充氏・(株)ビジネスランド代表取
締役社長の洲辺美紀氏・汪正仁
教授をパネリストとし、北海道
大学公共政策大学院特任教授・
(社)日本港湾協会会長の栢原英郎
氏をコーディネータとしたパネ
ルディスカッションが行われま
した。

2. 基調講演

「アジアにおける国際物流
の現状」

立命館アジア太平洋大学

汪正仁 教授

汪正仁教授による基調講演で
は、日本をはじめ各国の企業の
東アジア地域への生産拠点シフ
トにより東アジアにおける国際
物流が近年急速に発達している
こと、上海・釜山・香港・シン
ガポール等における港湾や空
港の開発計画等を紹介していた
できました。

さらに、沖縄の持つ潜在能力
と課題について、コンテナ貨物
が日本本土の他港と比較して一
段と少ないこと、産業基盤の整



沖縄の国際物流拠点の1つ「那覇港」

備が今後求められることなどの課題はあるものの、東アジアと日本の中間にある地理的特性を活かし、中継貨物や流通加工型産業の誘致により沖縄の産業全体の活性化につながる物流の実現が可能であるとの意見を頂きました。

3. パネルディスカッション

「沖縄における今後の国際物流戦略について」

パネルディスカッションでは、栢原英郎氏のコーディネートにより、地元企業代表の湧川氏・洲辺氏及び基調講演を頂いた汪教授をパネラーとして活発な議論が行われました。

湧川氏は、沖縄の抱える問題点として、海外からの直行便が少ないこと、入る貨物が多く出る貨物が少ない非効率な片荷輸送等による物流コスト高等が沖縄の産業の競争力に悪影響を与えていることを指摘され、問題点解消のためには、構造改革特区による輸入品を活用した沖縄県外への貨物量を増やすような施策が必要との考えを示されました。

洲辺氏からは、物流・交流・情報等の総合力のある港湾整備、県外へ出す貨物には沖縄ならではの付加価値を付けることの必要性に加

えて、人材育成のエキスパートの視点から、かつての「万国津梁」の時代のように自分たちから県外へ働きかけられるような人材の育成が必要であるとのお話を頂きました。

汪教授からは、沖縄の今後の発展のため、沖縄の地理的優位性を活かした中継貿易の実現や新たな産業を興すための企業誘致の必要性が述べられ、これを実現していくためには、官民一体となった沖縄版「国際物流戦略チーム」が必要との意見を頂きました。

パネルディスカッションの最後には、栢原氏より、港湾を単



パネルディスカッションの様子

なる産業基盤ではなく地場産業と捉え、沖縄の経済的自立に向け進んでいていただきたい、そのためには沖縄の国際物流のあり方を考える「国際物流戦略チーム」を立ち上げ、県内のみならず海外も含む県外へ幅広い目を向け、沖縄ならではの議論を行っていただきたい、との提言を頂きました。

4. おわりに

今回のシンポジウムでは、官民一体となった「国際物流戦略チーム」の立ち上げの必要性が提言されました。

また、最後の会場からの質問時にも、「国際物流戦略チーム」を立ち上げるに当たっては、経済・行政のみならず物流業界もメンバーに入れて議論を行うって欲しいとの意見が出されました。

今後、沖縄総合事務局では地元経済界と連携して、物流業界・関係行政機関等をメンバーとした「沖縄国際物流戦略チーム」を年度内に立ち上げ、今後の沖縄における国際物流のあり方を皆様と一緒に検討してまいります。